国際実験動物科学会議

International Council for Laboratory Animal Science (ICLAS)

概 要

2024年11月

日本学術会議基礎医学委員会ICLSA分科会

ICLAS

since 1956

International Council for Laboratory Animal Science

実験動物の適正使用に関する世界唯一のアンブレラ機構

沿 革

1956年： UNESCO（国際連合教育科学文化機関）の呼びかけにIUBS（国際生物学連合）とCIOMS（国際医学団体協議会）が応じて設立。UNESCO より運営活動資金拠出。

1961年～1974年： WHO（世界保健機関）より運営活動資金拠出。

1974年～： 会員団体分担拠出金、寄付金などにより運営。

1976年～： ICSU（国際科学会議; 現 ISC: 国際学術会議）会員。

現執行体制 （2023～2027）

Jussi Helppi
理事長：ドイツ

入來篤史
副理事長：日本

Marcel Frajblat
事務局長：ブラジル

Hanna-Marja Voipio
財務理事：フィンランド

委員会等運営組織

- 理事会（16名, 内 日本人２名）
- 執行委員会（4名, 内 日本人1名）
- 担当地域別運営委員会
  - •アジア •アフリカ •アメリカ
  - •オセアニア •ヨーロッパ
- コミュニケーション委員会
- 教育奨学委員会
- 倫理福祉委員会
- 各賞選考委員会

ICLAS の事業と社会への貢献

理念： 人類の健康福祉の増進に資する、信頼性･再現性の高い高品位の動物実験を実現するための、地域のニーズに根ざした、科学的合理性のある動物実験倫理の国際ハーモナイゼーションの追求と普及

高品位実験動物ネットワーク事業

Laboratory Animal Quality Network

元日本学術会議を代表の野村達次の提唱による実験動物の品質規格の概念を実現し、実験動物の品質管理と動物実験データの信頼性・再現性向上をもたらす実験動物の品質の国際標準化のために、２プログラムを運営。

- **実験動物生物学的品質モニタリング評価事業**
  Performance Evaluation Program for Diagnostic Laboratories
- **実験動物遺伝学的品質モニタリング評価事業**
  Genetic Monitoring Reference Program

動物管理教育訓練支援事業

Grants Program, Education & Training

信頼性･再現性が高く倫理的な動物実験研究の国際標準を高め、動物実験従事者（管理･飼育･利用者）の技能向上を目指す教育･訓練支援のために、４プログラムを運営。研究環境の発展途上国/地域への支援充実に努める。

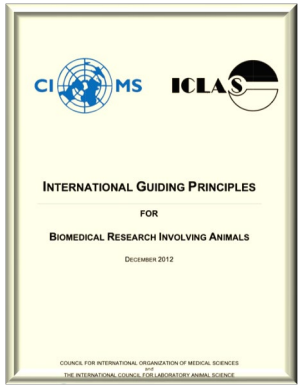
- **教育訓練プログラム･スポンサーシップ事業**
- **動物従事者教育訓練プログラム派遣援助事業**
- **先端技術習得のための交換留学奨学金制度**
- **動物実験教育指導者養成プログラム支援事業**

ICLAS

since 1956

International Council for Laboratory Animal Science

ICLAS の多科学研究領域に亘る貢献



国際的な動物実験ガイドラインの発出

- CIOMS-ICLAS International Guiding Principles for Biomedical Research Involving Animals (2012)
- Perspectives on the Role of Professional Laboratory Animal Science Associations (2017)
- HARRP (Harmonized Animal Research Reporting Principles) (2018)
- ICLAS LAQ Network for the Promotion of Animal Quality in Research (2022)
- Genetic quality: a complex issue for experimental study reproducibility (2023)
- The Case for Genetic Monitoring of mice and rats used in Biomedical Research (2023)

実験動物を用いる広範な科学研究領域との連携

ICLAS の Union Member

国際生理科学連合
International Union of Physiological Sciences

国際薬理学連合
International Union of Basic and Clinical Pharmacology

国際免疫科学連合
International Union of Immunological Societies

ICLAS

since 1956

International Council for Laboratory Animal Science

日本学術会議・日本の科学者とICLASとの相互貢献

運営組織への人的貢献

- 設立以来継続的に執行役員を日本から輩出。
- 最近の就任状況は右表の通り。

副理事長	2019～2027	**入來篤史**	（25,26 期）連携
理　事	2019～2027	**林元展人**	（25,26 期）特任連携
理　事	2015～2019	**入來篤史**	（23,24期）連携
副理事長	2011～2015	**鍵山直子**	（22 期）連携

実施事業での相互貢献

- 高品位実験動物ネットワーク事業（前述）の中核運営組織※ を日本に置き、データの信頼性・再現性向上をもたらす実験動物の品質の国際標準化へ貢献。

※ 1979年にICLAS により唯一認定された、実験動物の遺伝および微生物学な品質管理のためのセンター

ICLAS Monitoring Center

センター長：ICLAS 理事　**林元展人**

学術的貢献

- 日本学術会議が2006年に発出した「**動物実験の適正な実施に向けたガイドライン**」英語版が、動物実験に関する国際的「CIOMS-ICLAS International Guiding Principles for Biomedical Research Involving Animals」に引用。
- 2013年に、日本学術会議を代表して永くICLAS の発展に尽くした 故 野村達次 博士の功績を称え、実験動物学分野の最高賞 **Mühlbock-Nomura(野村) Award** が創設され、第１回として2015年 日本から 伊藤守 博士が受賞。

ICLASの展望と使命

● 科学的合理性と倫理観と調和する動物実験

官･学･産が一致協力して本会ミッションを遂行し、実験動物学の専門領域を超えて、動物飼養保管等基準の軌道を踏み外すことなく生命科学研究を科学的･倫理的に適正な方向へと導き、医療イノベーションなど生活の向上に貢献する。

●実験動物を用いる広範な科学研究領域との連携

実験動物のユーザー研究者をも広く支援する国際組織として、実験動物を用いる広範な科学研究領域の基盤を支えることに貢献する。諸科学の国際連合組織を Union Member として、学際的な学問的ニーズに答える実験動物の提供を支援する。

世界の動物実験の科学的･倫理的水準向上の追求と普及

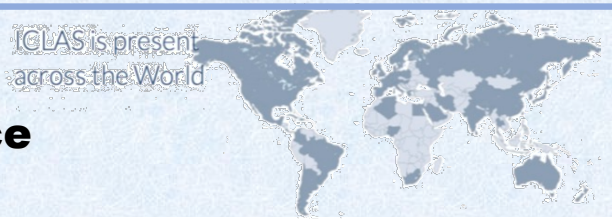
● 地域の文化的背景と調和する動物実験

各国/地域の代表による国際アンブレラ組織として、各地の社会的/文化的背景や関連法令の違いを尊重した国際協調をもとにして、高水準の国際標準を実現することによって、多岐に亘る実験動物のユーザーを広く支援する。

● 動物実験科学振興の体制の整備･普及･支援

『CIOMS-ICLAS International Guiding Principles for Biomedical Research Involving Animals（CIOMS-ICLAS動物を含む生物医学研究のための国際指導原則）』の発出など、各国の動物実験指針の範となり、それらを実現する体制を整備するとともに、知見の蓄積・普及によって国際標準化する。

ICLAS

since 1956

International Council for Laboratory Animal Science